

異常気象の夏でした。

秋には自然から五感で感じるものをたくさん見つけて欲しいですね。

年々暑さが増し、このまま行くと2030年には年平均気温より1.5度高くなると言われています。

8月後半は日本列島が梅雨時のように前線が停滞し、大雨となり各地で被害が出ました。今おかれている地球温暖化を食い止めていかないと、地球はぼろぼろになってしまいます。未来を生きる子どもたちにちゃんとした社会、地球をつくらなくてはと強く思っています。



さて、保育園では今年度「名古屋市環境局大気環境対策課」の協力を得て「空気のきれいさがわかるアサガオ」を育てています。給食室前のフリースペースの前にそのアサガオとひまわりで緑のカーテンを作りました。夏真っ盛りの頃はひまわりの花が元気に咲いていました。後半はアサガオがきれいな花をいっぱいつけています。この花を使って、子どもたちは色水作りをせっせと楽しんでいます。ひまわりの種はしっかり乾燥させてから取って、また来年咲かせて行きたいと思っています。

また、周りではにぎやかなクマゼミの声が静かになり、ツクツクボウシの鳴き声が変わっています。そして、夜になるとコオロギなどの虫の音が心地よく響いて来るようになりました。

生き物の様子や、葉っぱの様子などもどんどん変わって来ます。秋は身近な自然の中から子どもたちが五感で感じるものがたくさん見つかる季節ですね。

子どもたちに平和な世界を

去る7月23日に益川俊英さんが逝去されました。益川先生は5歳だった1945年3月に名古屋空襲で自宅に焼夷弾が落とされ、家が燃え盛る中を父親に抱えられて逃げ延びた…という話を講演会で聞いたことがあります。そんな経験をされている益川先生は、「九条科学者の会」や「安保保障関連法に反対する学者の会」の呼びかけ人に名を連ね、科学者として核兵器と戦争の廃絶は切っても切れないものであると言い続けて来ました。改めて益川先生が残してくれたものを引き継いでいく努力をしていきたいと思っています。

さて、8月は原爆投下から76年を迎え、広島・長崎で原爆犠牲者慰霊記念式典が行われました。式典ではそれぞれの市長が今年1月に発行された核兵器禁止条約を「世界の共通ルールに」と訴え、政府に署名と批准を求めました。しかし、菅総理は「条約に署名する考えはない」と回答するという残念な回答しかされませんでした。それどころか、記念式典の挨拶では、原稿読み飛ばしや漢字の読み間違いをするなどし、ひんしゆくを買いました。

式典で「多くの被爆者が傷つき、苦しみながら立ち上がってきたことを知って欲しい。平和と思える今日の背景に多くの被爆者の死や苦労がある。命ある限り語り継ぎ、核兵器廃絶と平和を訴え続けていく」と語った被爆者代表の言葉にも関わらず、菅総理の過去の過ちや歴史に真摯に向き合おうとしない姿勢がうかがわれたのは残念な事でした。

/// 広島原爆記念式典でのこども代表の挨拶の一部を紹介します ///

本当の別れはあえなくなるのではなく、忘れてしまうことです。

戦争で犠牲になった人たちのことを忘れてはいけません。

私たちは、悲惨な過去を繰り返してはいけません。

私たちの願いは、日本だけでなく、全ての国が平和であること

この世界に生きる誰もが、心から平和だと言える日を目指し、努力し続けます。



子どもたちのこの言葉が実現することを願っています。